

2024 年度生態工学会 第 3 回理事会
日 時: 2025 年 3 月 4 日(火) 14:30～15:30
場所: Web 開催 (zoom)

【総務委員会】

2024 年度総務委員会活動報告 (3 月期)

(1) 会員数・賛助会員数

会員数: 2025 年 2 月 25 日現在 (カッコ内は 2024 年 10 月 22 日からの増減)

終身会員 1 名 (増減なし)

正会員 322 名 (1 名増)

学生会員 81 名 (1 名増)

合計 404 名 (2 名増)

賛助会員数: 5 団体 6 口 (増減なし)

ダイキン工業株式会社 (2 口)、ホテイ産業研究所 (1 口)、

宇宙システム開発株式会社 (1 口)、クリムゾンインタラクティブ (1 口)

プライムデリカ株式会社 (1 口)

(2) 審議事項

・「日本農業工学会 40 周年記念 WEB ページ」掲載原稿作成の依頼について
⇒船田良会長に掲載原稿をお手配いただけることとなった。

・「日本農業工学会 40 周年記念事業功績賞」の推薦依頼について
⇒会長・副会長で候補者の検討を行い、推薦を行うこととなった。

・第 41 回国際生物学賞受賞候補者の推薦について
⇒候補者の推薦があれば、会長・総務委員会にご連絡をいただくこととなった。

・2025 年度日本農学賞受賞 祝賀会について
⇒参加希望者がいれば、会長・総務委員会にご連絡をいただくこととなった。

・コスモス国際賞受賞候補者の推薦について
⇒跡見順子顧問を推薦することが承認された。

・「Biz メール&ウェブ ビジネス」の引き継ぎについて
⇒総務理事で「Biz メール&ウェブ ビジネス」のアカウントを管理することとなり、
渡邊博之副会長が担当されることとなった。

(3) 報告事項

- ・第 68 回宇宙科学技術連合講演会に協賛を行った。
- ・「日本工学会 令和 6 年度第 2 回会長・フェロー懇談会」に船田良会長がオンラインで出席された。
- ・学術著作権協会の依頼に基づき、「著作権管理委託著作物リスト」を更新した。
- ・「日本農業工学会 2024」に候補者として齋藤高弘副会長の推薦を行った。
- ・「2024 年度 日本農業工学会フェロー」に候補者として細井文樹副会長、蘆原昌司副会長の推薦を行った。
- ・一般社団法人日本農学会総会第 8 回(2025 年度)総会および日本農学賞選考会に細井文樹副会長が出席された。

以上

【編集委員会】

2024 年度編集委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」36 巻 2 号～36 巻 4 号(2023 年 4 月、7 月、10 月発刊)を発行した。37 巻 1 号の発行は遅れている 2 月 20 日時点で印刷中であり、2 月中には発刊できる予定（内容：原著論文 3、短報 3、受賞記念寄稿 1、ニュース・企画・報告 0、お知らせ、投稿規程）。なお 2023 年 1 月 28 日時点で査読・著者修正中の論文・短報はない。

また、36 巻 4 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	2024 年度「生態工学」掲載論文一覧			
	第 36 巻		第 37 巻	
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	2	1		
短報	1		1	1
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿		1		
ニュース・企画・報告				

(2) 学会賞の推薦

本年度は奨励賞、論文賞の該当者なしとして表彰委員会に報告した。

以上

【企画委員会】

2024 年度企画委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合 2024 年大会（合同開催）

日 時：2024年5月26日（日）～5月31日（金）

会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月26日（日）にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表5件（13:45～15:00）、現地ポスター発表5件（17:15～18:45）を実施した。また、同日にポスターフラッシュトーク（15:00～15:15）を実施した。

(2) 2024 年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2024年6月29日（土）～6月30日（日）

会 場：愛媛大学樽味キャンパス農学部大講義室

参加人数：80名

特記事項：

■ 6/28 エクスカーション「植物工場研究センター（当時）」 参加9名

■ 一般セッション口頭発表 10件、ポスターセッション 16件

■ オーガナイズドセッション 4件

「食と健康の未来を考える」

関西支部、産学連携委員会

「宇宙での食料生産」

宇宙事業推進委員会、CELSS委員会

「循環型社会構築の展望と課題」

循環型社会構築委員会

「日本を元気にするNPOの活動」

NPO法人蔵前バイオエネルギー

■ 一般公開シンポジウム「中山間地域と里山の持続性に貢献する農林業DX」

1. DX で強くなる中山間地域の高付加価値農業生産

「トライアングルエヒメ推進事業における農業 DX への期待」

高岡晃仁（愛媛県企画振興部 デジタル戦略局長）

「施設園芸を強くする最新スピーキングプラントアプローチ（SPA）」

高山弘太郎（豊技大院 教授、愛媛大院 教授）

「ストロング・ミニマム園芸を支える DX～施設園芸と柑橘～」

藤内直道（愛媛大院 助教）

2. 中山間地域の維持に不可欠な里山の DX

「里山を構成する森林を対象としたデジタル計測」

都築勇人（愛媛大院 准教授）

「科学的知見に基づいた森林保全を通じた里山の維持」

鍋嶋絵里（愛媛大院 准教授）

「森林教育の DX と森林・林業 GX・SX 担い手育成」

小林 修（愛媛大 教授、SDGs 推進室副室長）

(3) 日本マイクログラビティ応用学会 第35回学術講演会 JASMAC-36（協賛）

日時：2024年9月10日（火）～9月12日（木）、会場：同志社大学室町キャンパス寒梅館

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」を9月11日に実施。

OS1-1 月の縦孔・地下空洞 ○春山純一、○JAXA/うずめワーキンググループ

OS1-2 花柄ディンプルと曲線折りで金属製多面体を展開する月面ベースキャンプ

○佐藤淳、河鱒実之、横関智弘（東京大学）、斉藤一哉（九州大学）、大畑勝人（㈱竹中工務店）、桜井誠人、阿波田康之、星之内菜生（JAXA）

OS1-4 一般民間人滞在のための快適ECLSS ○野中 朋美、○早稲田大学

OS1-5 宇宙に地球の生態系は必要か？ ○山敷庸亮、○京都大学

(4) 第68回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2024年11月5日（火）～11月8日（金）

会 場：姫路市文化コンベンションセンターアクリエ ひめじ（兵庫県姫路市）

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！～宇宙居住と物質循環～」
一番大きな会場で元宇宙飛行士二名の発表もあった。

3A17 ECLSS 研究開発の今後10 年の傾向と対策○桜井 誠人，島 明日香（JAXA）

3A18 有人宇宙開発における日本の役割強化 - 教育プラットフォームとしてのECLSS
LAB のケーススタディ-、蓮見 大聖（Amateras Space Inc.）他

3A19 月面1000 人社会におけるECLSS モデルシミュレーション○諸島 玲治，広崎 朋
史（宇宙システム開発），他

3A20 有人Mars Flyby ミッションのECLSS 設計の課題○宮嶋 宏行（国際医療福祉大）

4A01 有人宇宙活動における循環型社会の実現に向けた課題○市村 周一（京大）他

4A02 宇宙的日常性を体験する食体験ワークショップ「うちゅうのふつう。ちきゅうの
ふつう。うちゅうでふつう。」○野中 朋美（早大）他

4A03 未来世代の化学を創る連続生産技術○増田 光一郎（産総研）

4A04 ハイブリッド型生命維持システムとその要素技術のスピンオフ○小口 美津夫

4A05 有人宇宙探査向け水再生システムの開発とその軌道上実証状況○松本 千誉（栗
田工業）他

4A06 宇宙居住に資する窒素化合物回収と資源化○高橋 顕（産総研）

4A07 有人宇宙技術を支える金属錯体系吸着剤○堀 彰宏（SyncMOF, VitaCarb
Innovations），

4A08 イオン液体膜を用いた空気中CO₂ の直接回収技術○牧野 貴至（産総研）

4A09 光を駆動力とするCO₂ 回収：光異性化スイング○稲垣 冬彦（神戸学院大）他

4A10 酸素製造ーサバチエ反応一体化反応器の改良とシステム検討○島 明日香（JAXA）

4A11 ガスリッチな気液二相流に適用する回転式気液分離器の研究、島 明日香（JAXA）

4A12 宇宙基地物資循環システムにおけるエクセルギー評価のためのツール開発、○佐
藤 俊太（慶應大）

4A13 「宇宙基地における物資循環システムのエクセルギーをベースにした設計手法の
考察及びその評価」○山崎 直子（東大（元））他

4A14 宇宙生活における実体験に基づくECLSS に関連するトピックの紹介○若田 光一
（Axiomspace）

(5) 定例研究会

第1回定例研究会

日 時：5月29日（第1回理事会後）

タイトル：最小の植物病原体ウイロイド

演者：（国研）農研機構 植物防疫研究部門
上級研究員 松下陽介氏

第2回定例研究会

日 時：10月29日（第2回理事会後）

タイトル：対話型鑑賞が拓く環境有機農業への好奇心

演者：筑波大学 非常勤講師、NPO法人日本火星協会 理事
物質・材料研究機構 特別専門職
新井真由美 理事

第3回定例研究会

日 時：3月4日（第3回理事会後）

タイトル：最近の宇宙開発全般にわたるトピックスの紹介

演者：JAXA 桜井誠人 理事

以上

【表彰委員会】

2024 年度表彰委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

長年当会の賛助会員をお務めいただいている有限会社ホテイ産業研究所様に「功績賞」の授与を検討している。後日、メール審議をお願いする予定である。

以上

【広報委員会】

2024 年度広報委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

(1) SEE QUICK（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2024 年 4 月 1 日から 2 月 17 日までに 67 回（2330 号より 2396 号）情報提供を行った。

配信内容としては、学会主催のイベントの開催案内の他、関連学協会からの団体からのお知らせ、および会員からのイベント開催案内、ならびに公募情報等があった。

(2) ホームページの内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、ホームページのコンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

直近では「2025 生態工学会年次大会（千葉大会）のお知らせ(2025 年 7 月 4～5 日)」を掲載した。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの記載内容（第 12 期役員名簿_変更等）の改訂を行い、HP 内の内に掲載した。訂正追加等ありましたらご連絡ください。

https://see.gr.jp/what/pdf/see_leeflet_20240712.pdf



以上

【国際委員会】

2024 年度国際委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

(1) 活動報告

University of Arizona, Biosphere 2, annual symposium 2025 へのオンライン参加に関するコンタクト。

(2) 事業計画

1. 現在、空席となっている副委員長について募りたい。
2. タイ、カセサート大学との交流について引き続き検討をおこなう。
3. その他、生態工学に関わる海外とのコンタクトポイントの開拓、オンラインセミナーなど海外情報の提供などを適宜おこなう。

以上

【産学連携委員会】

2024 年度産学連携委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

(1) 2024 年度活動報告

【「食と健康の未来を考える」オーガナイズドセッション】（資料5）

愛媛大会で産学連携委員会と関西支部の主催で食と健康をテーマとしたオーガナイズドセッションを下記のとおり実施した。

- ・日時：2024 年 6 月 29 日(土) 10:45～12:00
- ・場所：愛媛大学
- ・主催：生態工学会 産学連携委員会、関西支部
- ・内容：
 1. 本セッションの主旨・経緯説明(10 分) 生態工学会関西支部長 伊能利郎
(ダイキンアプライドシステムズ)
 2. 講演、話題提供(各 15 分、※印はビデオからの登壇)
 - ・神戸大学医学部附属病院栄養管理部部長／糖尿病・内分泌内科
「食健幸プロジェクト」 特命講師 高橋路子氏※
 - ・住化分析センター大阪ラボラトリー 副技師長 松岡康子氏
「美味しさの感性評価」
 - ・大阪公立大学大学院農学研究科 准教授 山口 夕氏※
「植物工場野菜の機能性」
 - ・大倉工業 R&D センター 課長 加藤尚士氏
「加圧熱水抽出技術による食物残渣からの機能性成分抽出」
 3. まとめ、終わりの挨拶（2 分） 生態工学会関西支部長 伊能利郎

【シンポジウム開催】

- ・開催時期：’ 25 年 3 月 13 日(木) 14:00～16:30
- ・開催形式：オンライン開催@ダイキンアプライドシステムズ大阪支店
- ・テーマ：食と健康の未来&健康寿命の延伸に向けて
～食品業界の取り組みの流れ～
- ・次 第：
 - ・挨拶、支部取組み、経緯のご紹介(5 分)

- ・基調講演(30分)『いざ！もしも！食の備えで健康に』
 ・医薬基盤・健康・栄養研究所
 災害栄養情報研究室 室長 坪山（笠岡）宜代氏
- ・セミナー(25分×3＝75分質疑応答含む)
 - ・学研フードテック共創プラットフォーム 特命参与 小田一彦氏
 『けいはんな学研都市におけるフードテックの取組
 ～食と健康の未来を踏まえて～』
 - ・ミツカンホールディングス株式会社戦略企画部 部長 岡本洋忠氏
 『自然の力と素材を活用したイノベーション』
 - ・日本食研株式会社 食未来研究室 室長 児玉一穂氏
 『ライフスタイルの変化と食市場全体の動向』
- ・パネルディスカッション(25分) ～食品業界の取り組みの流れ～
- ・まとめ
- ・関西支部新入会員ご紹介
- ・終わりの挨拶

【コメント】

- ・技術シーズのバリューチェーン化による産業化に一步でも近づける取組みを開始した。
- ・今後もアカデミアの様々なシーズのコーディネート、アレンジにより、産業化につながる仕組みづくりを進めていきたい。

(2) 2025 年度事業計画

【食と健康シンポジウム開催】

- ・食と健康をテーマにしたシンポジウム開催の継続
- ・産業界に近い地域の関連外部団体(学研フードテック共創プラットフォーム、健康創造都市 KOBE 推進会議)での活動により産学連携を強化し、産業化により近づけていく。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2024 年度 次世代科学社会活性化委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

- (1) 男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続している。生態工学会は、男女共同参画学協会連絡会内で、日本宇宙生物科学会と共に、「男女共同参画学協会連絡会」に関する問題洗い出し WG 活動を行っている。世代を超えて知り合い語り合う場である NAGOMI 会（NAGOMin）も同様に継続している。第 24 回からは学生向けの内容、学生および大学院生の研究生活について、様々な分野で活躍する方のワークライフバランスについて話題提供した。2023 年度後半より総務委員会の協力を得て個別 zoom を利用している。なお、来年度の日本地球惑星科学連合 2025 年大会（千葉幕張メッセ・ハイブリッド）に企画委員会とともにセッションを開催予定である。当委員会は、世代や性別等を区別することなく、広く互いに知り合う会として、引き続き活動していく予定である。委員会活動は、協力者を随時求めている。
- (2) 審議事項
 来年度の NAGOMin を開催するに当たり、生態工学会が費用を負担して Zoom アカウントの更新を行うことが承認された。

以上

【将来構想委員会】

2024 年度 将来構想委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

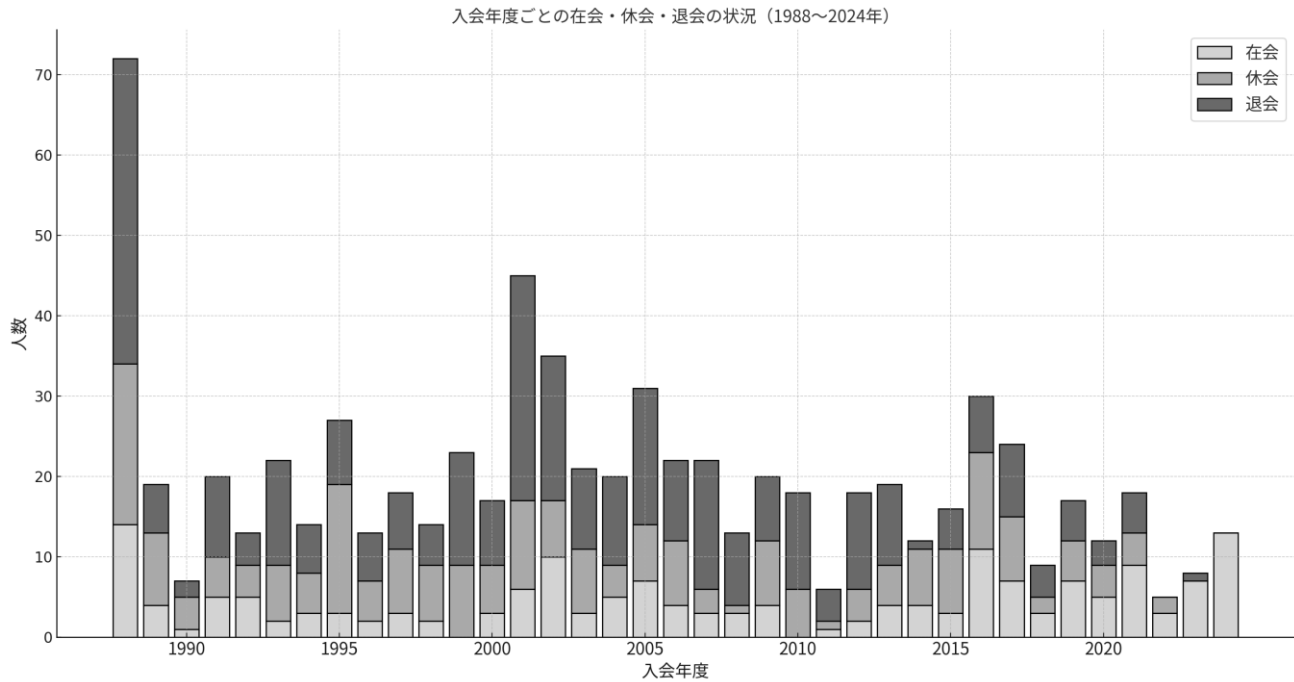


図1 2024 年現在における，入会年度ごとの在会・休会・退会の状況（1988～2023）。その年度に入会した会員が，現在どの区分（在会・休会・退会）に属しているかを示している。例：1988 年には 72 名の入会があった。そのうち，現在の在会者は 15 名，休会者は 20 名，退会者は 37 名であった。

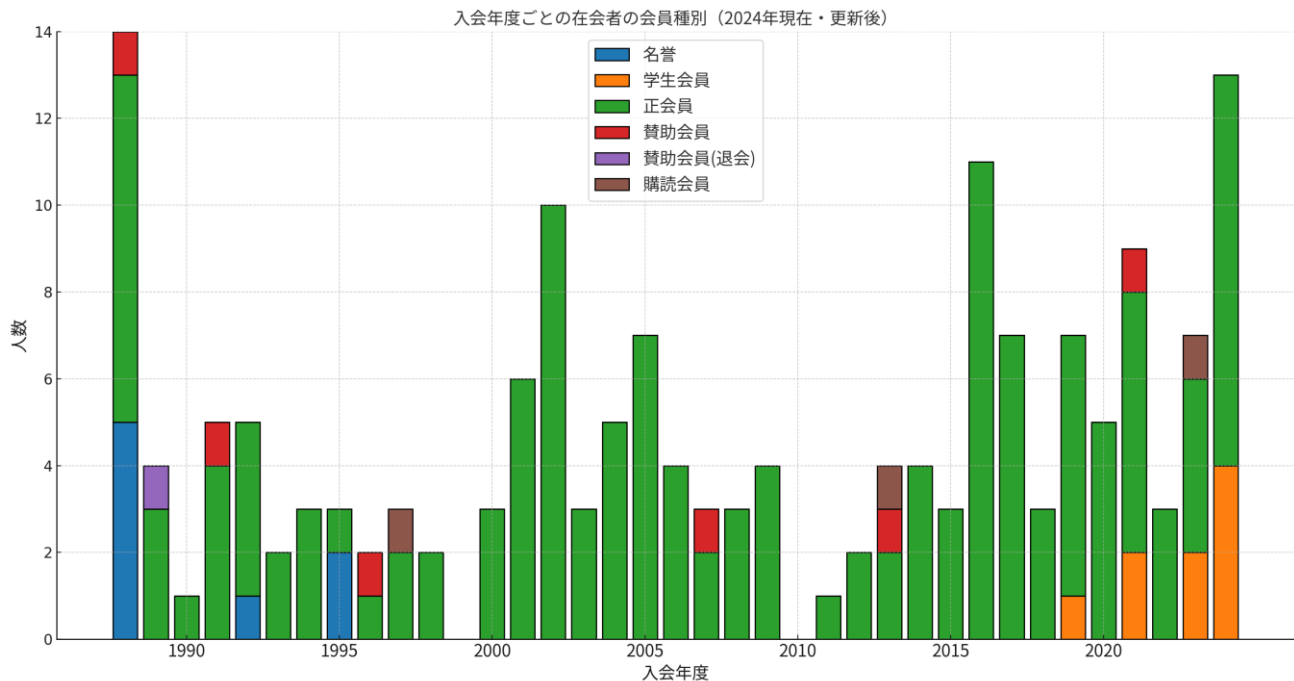


図2 2024 年現在における，入会年度ごとの在会者の会員種別

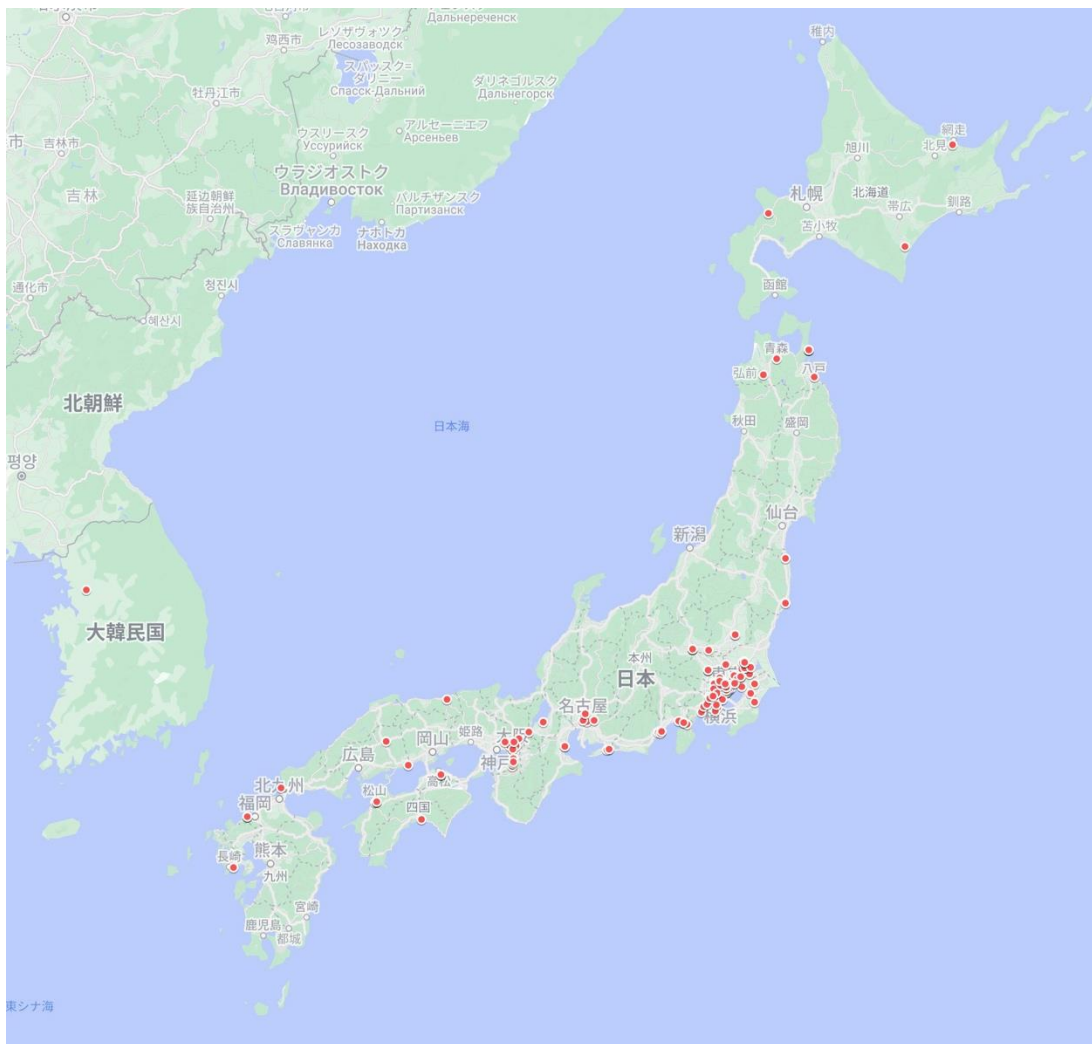


図3 2024年現在における、所属住所が判明している在会会員の国内分布

また、今後は新規入会受付時に入会理由や学会に期待すること、退会受付時に退会理由の確認などの情報収集を行うことを検討している。

以上

【CELSS 委員会】

2024 年度 CELSS 委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

- (1) 日本地球惑星科学連合 2024 年大会@幕張メッセ、2024 年 5 月 27 日(月)
A-OS11 陸域海洋相互作用—惑星スケールの物質輸送(京都大学：山敷先生)
[AOS11-03] 有人宇宙探査のための物理化学的生命維持装置
★招待講演：桜井 誠人(宇宙航空研究開発機構)
- (2) ICES 2024 – LOUISVILLE, Kentucky
53rd International Conference on Environmental Systems
21-25 July 2024
・ICES2024 発表、
 - 1) Asuka Shima, Masato Sakurai, Yoshitsugu Sone, Hironori Nakajima, Mitsuhiro Inoue and Takayuki Abe "Improvement of the Full-Scale Model of Carbon Dioxide Reduction-Oxygen Production Tandem Reactor" CES-2024-120, , 53rd International Conference on Environmental Systems, 21-25 July 2024, Louisville, Kentucky
 - 2) Masato Sakurai, Asuka Shima, Takuma Terao, Motohiko Sato "Development of CO2 Removal System Aiming for Compactness and Power Saving –A Case for Using Granular CeO2–"ICES-2024-260, 53rd International Conference on Environmental Systems, 21-25 July 2024, Louisville, Kentucky
 - 3) Nao Hoshinouchi, Jun Sato, Saneyuki Kawabata, Tomohiro Yokozeki, Kazuya Saito, Masato Sakurai, Yasuhiro Awata "Estimation of Supplies at the Base Camp for the Start of the Stay in the Lunar Lava Tube"ICES-2024-267
 - 4) Kazuki Toma, Masato Sakurai, Shinichi Nakasuka "Regenerative ECLSS Station for Early Stage of Lunar Activities, Considering Both Crewed and Uncrewed Periods" ICES-2024-458
 - 5) Kazuki Toma, Kusano Motoharu, Murakami Gaku, Masato Ohata, Toshihiko Chiba, Taisei Hasumi, Taiki Kitagaki, Hikono Furuichi and Masato Sakurai "Strengthening Japan's Role in Human Space Development: A Case Study of ECLSS LAB as an Education Platform" ICES-2024-456

※ ECLSS&ISRU 委員会(島)、国際委員会(桜井)
※ 次回：ICES 2025 -PRAGUE, 54th International Conference on Environmental Systems
Hilton Prague -Praha, 13-17 July 2025
- (3) 日本マイクログラビティ応用学会(JASMAC-34)
開催日：2024 年 9 月 10 日（火）～9 月 12 日（木）
場所：同志社大学室町キャンパス寒梅館
特別企画 III「今後の国際宇宙探査で行う科学の検討サイクル構築」に向けた Task Force 報告
座長 竝木則行（国立天文台）、稲富裕光（JAXA）内田敦（株式会社三菱総合研究所）、小林泰三（立命館大学）、桜井誠人（JAXA）、松本 英登（内閣府）
- (4) 令和 6 年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム「月の縦孔での滞在開始用ベースキャンプの最小形態と展開着床機構の開発」にて、実物大のベースキャンプに関して検討中。
- (5) 日本建築学会内部で「宇宙居住小委員会」が立ち上がった。東海大学、十亀先生のリード。月極域の縦孔探査用居住モジュール、地上のアナログサイト、などの建築のデザイン検討を依頼開始した。3 年後ぐらいに出来る予定。
- (6) 宇宙建築学の教科書（仮）執筆中、東海大学、十亀先生リード

(7) JPGU :

日本地球惑星科学連合2025年大会

日 時：2025年5月25日（日）～5月30日（金）

会 場：幕張メッセ、オンライン（ハイブリット方式）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月25日（日）にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システム
およびその応用」において、口頭発表とポスター発表を実施予定。

(8) 日本生体医工学会：

日本生体医工学会第64回学術大会

日時：2025年6月6日（金）

会 場：フェニックス・プラザ（福井県福井市）

主 催：日本生体医工学会

シンポジウム テーマ：「宇宙に生きる ～宇宙環境とスマートヘルス～」

特記事項：宇宙空間で生活するための問題や、その解決に向けた研究について4名のシン
ポジストが発表予定(約15分)。テーマとして、衣食住、閉鎖空間、宇宙
服、放射線被ばくが予定されている。

座長（予定）：高田宗樹先生（福井大学）、田中邦彦先生

以上

【宇宙事業推進担当委員会】

2024 年度宇宙事業推進担当委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

《活動報告》

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報を SEE Quick で配信した。（第 12 回：2024/12/23）
- (2) 2025 生態工学会年次大会（千葉大会）での宇宙居住関連のオーガナイズドセッションの実施に向けて内容の検討を行った。

《活動計画》

(1) 今後の活動計画

- ① 生命維持、宇宙居住に関するニュース、イベント情報、助成金・補助金情報等の情報収集を行い、SEE Quick で 2～3 ヶ月に 1 回程度定期的に配信する。
- ② CELSS 委員会と協力し、2025 年次大会においても宇宙居住関連の OS の企画を進める。
- ③ NPO 法人日本火星協会等と協力して、月・火星居住をメインテーマとしたシンポジウムを検討・企画する。
- ④ 今後の活動の参考とするため、宇宙関連の他学会の事業推進委員会の活動内容を調査する。

以上

【循環型社会構築委員会】

2024 年度循環型社会構築委員会活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

(1) 2024 年度活動報告

1. 2024 生態工学会年次大会（愛媛大会）でのオーガナイズセッションの開催

日時：2024 年 6 月 30 日（日）10:10～11:30

会場：愛媛大学農学部大講義室

テーマ：「循環型社会構築の展望と課題」（循環型社会構築委員会）

プログラム

- ・ 循環型社会構築委員会の設立趣旨

北宅 善昭（大阪公立大） 土肥 哲哉（日本有機資源化協会）

- ・ メタン発酵消化液の濃縮技術の紹介と濃縮による液肥利用促進および脱炭素効果の実証

山崎 早百合（シン・エナジー(株)第二電源開発事業部 資源循環部）

- ・ 閉鎖度を高めた栽培システムにおける循環資源の利用

遠藤 良輔（大阪公立大）

- ・ 土壌微生物の有効利用～微生物発電の可能性～

馬場 貴志（(株)エーイーエスラボ 代表取締役）

- ・ 物質循環型農水一体食料生産アクアポニックスの現在とこれから

遠藤 雅人（東京海洋大）

総括：循環型社会構築に関する様々な分野からの最新の研究発表

参加者の関心は高く、活発な議論が展開された

2. 第 2 回循環型社会構築委員会

日時：2025 年 3 月 4 日（火）9:30～10:30

会場：オンライン会議

議事：2024 年度活動報告及び 2025 年度活動計画

(2) 2025 年度活動計画

1. 2025 生態工学会年次大会（千葉大会）でのオーガナイズセッションの開催

テーマ：循環型社会構築に関する課題と展望（仮題）

目的：循環型社会構築に関する研究・実践の発表と意見交換

開催予定日時：2025 年 7 月 4-5 日

会場・方式：千葉大学 ハイブリット（案）

講演数：3～4 講演を予定

2. 循環型社会構築委員会のオンライン勉強会

目的：研究者・実務者間の課題共有とネットワークや情報発信の強化

テーマ（案）：地域資源循環の課題

マイクロプラスチック問題

食品ロス

サーキュラーエコノミーの実現の課題

LCA 解析の定義

その他

3. 新たな研究・実践プロジェクトの提案

目的：循環型社会構築のための新規プロジェクトの企画・立案

関連分野の研究者・実務者との協力強化

内容：公的研究機関や企業との共同研究、公募研究への申請等の可能性を検討

以上

【各支部活動】

2024 年度各支部活動報告（3 月期）

下記の報告がなされた。

【北海道・東北支部】

今後も会員獲得に向かって大学等に働きかけを行っていきたい。

【中部・東海支部】

農業気象学会東海・北陸支部と合同で開催した。開催日時は2024年12月12日午後～5時、開催場所は三重県四日市市（SYNTH ビジネスセンター近鉄四日市）であった。生態工学会会員からは、5件の発表があった。（資料6）

【関西支部】

(1) 2024 年度活動報告

【「食と健康の未来を考える」オーガナイズドセッション】

愛媛大会で産学連携委員会と関西支部の主催で食と健康をテーマとしたオーガナイズドセッションを下記のとおりを実施した。

- ・日時：2024 年 6 月 29 日(土) 10:45～12:00
- ・場所：愛媛大学
- ・主催：生態工学会 産学連携委員会、関西支部
- ・内容：
 1. 本セッションの主旨・経緯説明(10 分) 生態工学会関西支部長 伊能利郎
(ダイキンアプライドシステムズ)
 2. 講演、話題提供(各 15 分、※印はビデオからの登壇)
 - ・神戸大学医学部附属病院栄養管理部部長／糖尿病・内分泌内科
「食健幸プロジェクト」 特命講師 高橋路子氏※
 - ・住化分析センター大阪ラボラトリー 副技師長 松岡康子氏
「美味しさの感性評価」
 - ・大阪公立大学大学院農学研究科 准教授 山口 夕氏※
「植物工場野菜の機能性」
 - ・大倉工業 R&D センター 課長 加藤尚士氏
「加圧熱水抽出技術による食物残渣からの機能性成分抽出」
 3. まとめ、終わりの挨拶(2 分) 生態工学会関西支部長 伊能利郎

【シンポジウム開催】

- ・開催時期：’25 年 3 月 13 日(木) 14:00～16:30
- ・開催形式：オンライン開催@ダイキンアプライドシステムズ大阪支店
- ・テーマ：食と健康の未来&健康寿命の延伸に向けて
～食品業界の取り組みの流れ～
- ・次 第：
 - ・挨拶、支部取組み、経緯のご紹介(5 分)
 - ・基調講演(30 分)『いざ！もしも！食の備えで健康に』
 - ・医薬基盤・健康・栄養研究所
災害栄養情報研究室 室長 坪山（笠岡）宜代氏
 - ・セミナー(25 分×3＝75 分質疑応答含む)
 - ・学研フードテック共創プラットフォーム 特命参与 小田一彦氏
『けいはんな学研都市におけるフードテックの取組
～食と健康の未来を踏まえて～』
 - ・ミツカンホールディングス株式会社戦略企画部 部長 岡本洋忠氏
『自然の力と素材を活用したイノベーション』
 - ・日本食研株式会社 食未来研究室 室長 児玉一穂氏

『ライフスタイルの変化と食市場全体の動向』

- ・パネルディスカッション(25分) ～食品業界の取り組みの流れ～
- ・まとめ
- ・関西支部新入会員ご紹介
- ・終わりの挨拶

【コメント】

- ・技術シーズのバリューチェーン化による産業化に一步でも近づける取組みを開始した。
- ・今後もアカデミアの様々なシーズのコーディネート、アレンジにより、産業化につなげる仕組みづくりを進めていきたい。

(2) 2025 年度事業計画

【食と健康シンポジウム開催】

- ・食と健康をテーマにしたシンポジウム開催の継続
- ・産業界に近い地域の関連外部団体(学研フードテック共創プラットフォーム、健康創造都市 KOBE 推進会議)での活動により産学連携を強化し、産業化により近づけていく。

【中国・四国支部】

(1) 活動報告

生態工学会愛媛大会を主催した。

大会参加者は、150名ほどで懇親会出席者は75名であった。

大会中に一般公開シンポジウム「中山間地域と里山の持続性に貢献する農林業 DX」を開催した。ハイブリッド開催のため、学会関係者の他にも大学関係者、一般学生の参加も多数あった。

一般公開シンポジウム 「中山間地域と里山の持続性に貢献する農林業 DX」

1. 主 催：生態工学会、愛媛大学

2. 後 援：日本生物環境工学会 東海・四国支部、日本生物環境工学会生物生体計測部会、「知」の集積と活用の中産学官連携協議会 スマート・メガスケール植物工場研究開発プラットフォーム、CIGR（国際農業工学会） Plant factory and intelligent greenhouse WG、愛媛大学研究協力会スマート農業研究部会、農業情報学会施設生産部会、愛媛県、伊予銀行、豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター

3. 日 時：令和6年6月29日（土）15：30～17：30

4. 場 所：愛媛大学農学部 大講義室（オンライン ハイブリッド開催）
愛媛県松山市樽味3丁目5-7

5. 一般参加の可否：可

一般参加者の参加費の有無：無料

6. 開催趣旨：

我が国の農林水産業の衰退が加速している。その要因を人口減少に求める向きもある一方で、農林水産省の推計 1)によると、ライフスタイルや食生活の多様化による1人当たりの食料支出の伸びが人口減少を相殺し、2040年の食料支出総額は2015年の値を維持するとの見方もある。このことは、多様化する日本人の食ニーズにフレキシブルに対応する農業生産システムの維持・強化が必要であることを意味する。中山間地域の中小規模農業生産は、我が国の農業生産全体の約4割を占めており、まさに、多様化する食ニーズに応える希少で高付加価値の農産物の生産を担うものとして維持・強化されるべきである。また、中山間地域の農業は、それを内包する里山で暮らす人々によって営まれている。このことは、里山を念頭においた地域社会の維持と中山間地域の農業生産力の維持は、一体のものとして議論すべきであることを示唆する。本シンポジウムでは、デジタル化技術を駆使した中山間地域の小規模スマート施設園芸（植物生体情報計測に基づいた高付加価値農産物生産）による地域活性化とデジタ

ル化された森林計測に基づいた里山の維持管理の現状を紹介するとともに、デジタル化による中山間地域と里山の持続的発展を展望する。

7. 次 第：

総合司会：羽藤堅治（生態工学会 中四国支部長、愛媛大学 地域協働担当副学長、愛媛大学大学院農学研究科 教授）

15：30 開会の挨拶

船田 良（生態工学会長、東京農工大学大学院農学研究院 教授）

15：35 シンポジウムの開催趣旨

高山弘太郎（豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授、愛媛大学大学院農学研究科 教授）

第一部 DX で強くなる中山間地域の高付加価値農業生産

15：40 「トライアングルエヒメ推進事業における農業 DX の取り組み」

高岡 晃仁（愛媛県企画振興部デジタル戦略局長）

15：50 「施設園芸を強くする最新スピーキングプラントアプローチ（SPA）」

高山弘太郎（豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授、愛媛大学大学院農学研究科 教授）

16：05 「ストロング・ミニマム園芸を支える DX～施設園芸と柑橘～」

藤内直道（愛媛大学大学院農学研究科 助教）

第二部 中山間地域の維持に不可欠な里山の DX

16：25 「里山を構成する森林を対象としたデジタル計測」（仮）

都築勇人（愛媛大学大学院農学研究科 准教授）

16：45 「科学的知見に基づいた森林保全を通じた里山の維持」（仮）

鍋嶋絵里（愛媛大学大学院農学研究科 准教授）

17：05 「森林教育の DX と森林・林業 GX・SX 担い手育成」

小林 修（愛媛大学国際連携推進機構 教授、SDGs 推進室副室長）

17：25 閉会の挨拶

仁科 弘重（愛媛大学長）

17：30 閉会

(2) 活動計画

9／17（水）に日本生物環境工学会の全国大会が愛媛大学で開催される予定であり、その中で計画されている公開シンポジウムに協力予定である。

【九州・沖縄支部】

(1) 活動報告

- ・日本農業気象学会九州支部の後援（福岡県農林総合試験場，2024 年 12 月）
<https://sites.google.com/view/agrmet-kyushu2024/>
- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

(2) 事業計画

- ・他学会（近隣分野）九州支部との共同企画の検討（後援など）
- ・継続的な会員募集

以上

【2025 生態工学会年次大会】

2025 生態工学会年次大会(千葉大会) 準備状況

下記の報告がなされた。

(1) 大会組織 (敬称略)

大会委員長：後藤英司

実行委員長：彦坂晶子

実行委員：遠藤雅人、遠藤良輔、吉田英生、田村治美、土肥哲哉、中根昌克、
細井文樹、増田篤稔、寺添 斉 (事務局)

(2) 開催概要

【日 程】 7月4日(金)、5日(土)

7月3日(木)	7月4日(金)	7月5日(土)
PM エクスカーション (15:00~17:00) 千葉大学柏の葉キャンパス内 NPO 植物工場研究会 植物工場施設 新研究棟	AM 一般口頭発表セッション PM 総会 表彰式・受賞者講演 特別講演会 懇親会	AM 一般口頭発表セッション PM ポスターセッション 表彰式・閉会式

【会 場】 現地：柏の葉カンファレンスセンター

〒277-0871 千葉県柏市若柴 178 番地 4

ホテル&レジデンス棟 2 階 (三井ガーデンホテル柏の葉 2 階)



【アクセス】

つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス駅」西口より徒歩2分

※ 「普通列車/区間快速/通勤快速」のみ停車。快速は停車しないのでご注意ください。

※ JR からつくばエクスプレスへの乗り換えの場合、改札が少々離れていますので、時間に余裕をもって乗り継ぎください。

【昼食】 会場周辺のレストラン、食堂をご利用ください。

【特別講演会】 検討中

【OS】 募集中

【懇親会】 7月4日(金) 柏の葉キャンパス駅周辺

(3) 主要な締め切り一覧

内 容	期 日
オーガナイズドセッション企画案提出	2025 年 5 月 16 日 (金)
一般発表セッション申込み	2025 年 5 月 23 日 (金)
発表論文提出	2025 年 6 月 13 日 (金)
事前参加費振込み	2025 年 6 月 27 日 (金)

以上